

アフリカの野生動物保護事情

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

たいへん多くの日本人が誤解しているのは、「アフリカの国々では、あちこちにゾウやライオンなどがいて、動物なんて簡単に見られるに違いない」と思っていることです。ところが現地には日本のような動物園や、動物の種類ごとに鑑や柵などで仕切られたサファリパークなどといったものはなく、アフリカの国々で生まれ育った人の多くは、野生動物を見たこともない。というのが現実です。

外貨獲得に大きく貢献している野生動物を中心にした観光業は、アフリカの各国にとって主要産業のひとつです。そのため、膨大な国家予算を注ぎ込んで国立公園(ナショナルパーク)や、動物保護区(ゲームリザーブ)を指定、管理しています。もちろん、餌を与えたり草食獣と肉食獣とを分けたりはせず、広大な面積の公園ごと鑑も柵も作らず、自然のままに保護するのです。

このような保護地域のほとんどは、国が直接管理するか、県や郡のような地方行政が管理していますが、中にはごく少数ですが個人が管理・運営する私設保護区(プライベートサンクチュアリ)もあります。

国立公園や動物保護区の中やその周辺に



写真1 ナイロビのキリン保護センターで学芸員から野生動物たちの説明を聞く子どもたち

は、国が許可した民間のホテルチェーンなどが運営する宿泊施設があり、世界中からの観光客が豪華で快適なホテルライフを楽しみます。

野生動物が自由に歩き回る草原を、人間が車という鑑に入ったお邪魔し、彼らの暮らしぶりを拝見させていただくのが、サファリドライブです。

例外的に公園内でも湖畔や丘の上など、見通しのきく場所では車から降りていいことになっています。数百万羽のフラミンゴが翼を休めるケニアのナクル湖畔や、360度地平線が続くアンボセリ国立公園の見晴らしの丘に立ちますと、まさに気分爽快です。

ところでケニアでは、このところ国内の

国立公園や保護区内で、生まれて間もない野生動物の子どもたちが姿を消す事件が相次いで起こり、早速調査をした結果、なんと誘拐されたことがわかりました。

観光客のふりをして公園や保護区に入り、パトロールをするレンジャー(保護管)の目を盗んで、ライオンやチーターの子を毛皮に包んで連れ去るのです。

誘拐された動物たちの何頭かは、私設保護区に売られ、観光の目玉になっていた、ということが判明しました。

事の重大性を認識した政府は、公園や保護区内のライオンやチーターの親と、私設保護区内のライオンやチーターの子のそれぞれの DNA 鑑定を行いました。

多くの人が住む町には動物園がなく、子どもたちは生きた動物を見る機会がほとんどありません。テレビも日本のように普及

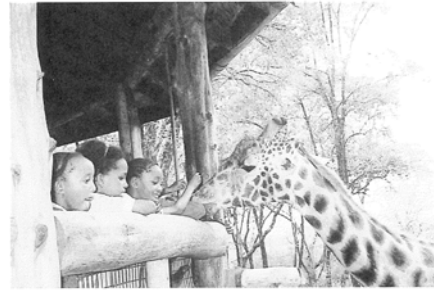


写真2 初めて近くで見るキリンにおつかなびっくりの子どもたち、ナイロビ郊外のキリン保護センターで撮影

していませんので、実際の動物の大きさや鳴き声なども、想像するほかありません。

数少ないチャンスのひとつが、ナイロビ郊外にあるキリンの保護センター。学校の先生や保護センターの学芸員からキリンの習性についてを学び、キリンに餌を与えて身近かな存在として触れ合うことです。

幼い子どもたちが澄んだ瞳をキラキラ輝やかせて真剣な表情で学んでいる姿が、とても印象的です。

▶ 静岡県の金谷町生きがいセンターで平岩父娘の写真展と講演会

静岡県榛原郡金谷町島550-2にある「金谷町生きがいセンター・夢づくり会館(電話0547・46・0075)では、夏休みの8月26日(火)から31日(日)まで「平岩道夫&雅代のアフリカ動物写真展」を開催する(毎日9時から5時まで)期間中の8月26日(木)10時から正午まで、

「子供のためのアフリカ動物講演会」が、また8月30日(土)1時から3時までは「大人のためのアフリカ動物講演会」が開かれ、平岩父娘の話や賞品付きクイズも行われる。

期間中会場ではケニア・タンザニアで平岩父娘撮影によるアフリカ動物写真パネルの展示と人気投票が行われるほか、平岩父娘が連日9時から5時まで質問にも答える。(入場無料)